

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 3 号 )



1 平成2年12月19日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 21名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	5番 岩村 勝弘
6番 山崎 雅己	7番 生稻 陞
8番 鈴木 勝美	10番 鈴木 忠夫
11番 神田 守隆	12番 榎本 春光
13番 山中金治郎	14番 小宮 利夫
16番 石井 昌治	17番 石井 謀
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
22番 黒川 平治	25番 渡辺 昭夫
26番 近藤 好雄	27番 林 豊
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 5名

4番 庄司二三男	9番 山口 康雄
15番 横溝 功	20番 福原 勳
23番 流山源次郎	

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 委員長 正木 高嗣	教育委員会 教 育 長 福原 修
選挙管理委員会 委員長 加藤 利	選挙管理委員会 事務局書記長 庄司 徹

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

1 議事日程（第3号）

平成2年12月19日午前10時開議

日程第1 議案第41号 館山市選挙公報の発行に関する条例の専決処分の承認について

日程第2 { 議案第42号 千葉県競輪組合を千葉県市町村公平委員会の共同設置団体に加えること及び千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

議案第43号 館山市福祉基金条例の制定について

議案第44号 南部圏域広域的水道整備計画を定めるにつき同意を求めることについて

日程第3 { 議案第45号 平成2年度館山市一般会計補正予算（第2号）

議案第46号 平成2年度館山市老人保健特別会計補正予算（第1号）

日程第4 { 請願第29号 固定資産税の据え置きを求める請願書

請願第30号 義務教育費国庫負担制度堅持に関する請願書

請願第31号 第5次（高校第4次）学級編制及び教職員定数改善計画の1991年（法定年度内）完全完結を求める請願書

開 議 午前10時08分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の出席議員数21名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第1、議案第41号館山市選挙公報の発行に関する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

## 質 疑 応 答

◎議長（渡辺昭夫君） これより質疑を行います。

11番。

◎11番（神田守隆君） 議案の第41号館山市選挙公報発行に関する条例についてお尋ねをいたします。

過ぎた市長選挙において実施された選挙公報発行についての専決処分についてでありますけれども、この承認にかかわる議案ということで、この選挙公報の発行自体は9月の市議会で私が提案をし、これに応じて早速実施していただいたもので、この選挙に当たって一定の選択の基準を示すことができたのではないかと思います。しかし、実際の選挙の経過を見てみると、それぞれの陣営からさまざまな印刷物が発行され、また実際に有権者の多くもこれらの印刷物を参考にしてその選択を行っていたというふうに思います。選挙が本来政策を示して有権者の信を問うものでありますから、当然のことだろうと思うのであります。

そこで、この条例でありますけれども、第1条で「館山市長の選挙における」と公報の発行を市長選挙に限定をされておるわけでありますけれども、来年の4月には市議会議員選挙が予定されているわけであります。そこで、市議会議員選挙に当たってもこうした公報の発行ができないものかどうか、この辺についてお聞かせをいただきたいと思うのであります。市議会議員選挙でも公報を発行している、こういう市が県下28市の中ではあるものでありましょいか、この辺についてお聞かせをいただきたいと思います。

次に、この第3条の中では候補者が書く選挙公報の掲載文については字数500を超えてはならない、こういう制約が課されているわけですが、選挙公報——各候補の公報の中での枠組みが決まっておりますので、その枠の中で例えばもっと多くのことを有権者に訴えたいという場合には、必ずしも500字にこだわらずに——500字を超えて書かなければならない。その分字が小さくなるという問題はあるわけですが、それはやはり候補者各陣営の選択で、自由で構わないのではないかと、字数500というような制約を

課す理由は大変薄いのではないかなという気がするわけなので、そうした点でこの字数の制限については必ずしも必要ないのではないかなと思うんですが、この制限をつけている理由は何なのか御説明をいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 選管委員長。

◎選挙管理委員会委員長（加藤 利君） 申し上げます。

第1点、市会議員選挙で公報を発行している市はあるか、議員選挙でも可能と考えられるかとの御質問でございますが、公報を発行しているところはございますが、市長選挙に比べ候補者の数が違いますので、掲載文の点検や印刷等に相当の時間を要するものと考えます。したがって、現状では困難であると考えております。

第2点、字数の制限については不要ではないかと思うがどうかとの御質問でございますが、字数につきましては公職選挙法第172条の2により制限されております。

◎議長（渡辺昭夫君） 11番。

◎11番（神田守隆君） 実際市長選挙に比べますと市会議員選挙では大変問題がある、大変困難性があるということは承知いたしますけれども — そのとおりだと思います。しかしながら、今実施している市もあるというようなお話でございましたので、どこの市で実施されているか、お調べがあったらその市を御紹介いただきたい。

それともう一点、公選法の規制のもとで500字ということで、法律で決まっているということでありますから、これは法律の改正がない限り難しいというのはよく承知をいたしました。しかし、なぜじゃあ法律で決めておるのかということについて何かお考えがございましたらお聞かせをいただきたいなと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 選管書記長。

◎選挙管理委員会事務局書記長（庄司 徹君） 御質問のありました県内で議員選挙に選挙公報を発行している市でございますが、全市で28市のうち16市でございます。その発行している市は主に県北の方の市でございます。木更津以南、茂原というんでしょうか、そこまでは選挙公報を発行しておりま

せん。

それから、選挙法の 172 条の 2 の制限でございますが、500 字以内と限定されております。これは市町村等の行う選挙公報につきましては 500 字以内と法定で制限されておるわけで、これを国等の選挙に行う — 2,000 字以上でありますけれども、そこまで拡大することは法律によってできません。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田君。

◎11 番（神田守隆君） ちょっと今のお話で、県内で 16 市ということで、これは市長選挙ではなくて、市議員選挙でも 16 市というふうに今の御答弁で — 私の勘違いかなと思うんですが、そういうことで理解してよろしいんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 選管書記長。

◎選挙管理委員会事務局書記長（庄司 徹君） 発行している市でございますが、市長選挙においては 17 市、それから議員選挙につきましては 16 市でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 他に御質疑ございませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎議長（渡辺昭夫君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

#### 討 論

◎議長（渡辺昭夫君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたし

ます。

### 採 決

◎議長（渡辺昭夫君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

### 議案の上程

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第2、議案第42号乃至議案第44号の各議案を一括して議題といたします。

### 質 疑 応 答

◎議長（渡辺昭夫君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第43号館山市福祉基金条例についてお尋ねを申し上げます。

提案説明によりますと、普通交付税の基準財政需要額において地域振興基金費が措置されたことに伴うものであり、この地域振興基金は本格的な高齢化社会に備え、地域における福祉活動の促進、快適な生活環境の形成等を図るための経費とのことであります。金額は補正予算に示された6,314万円とのことであります。もともと当市の――例えば老人福祉のための具体的な事業のために備えて基金をつくるというものではないようであります。既に当市はいわば21世紀を先取りした高齢化社会が始まっております。将来に備えてといっても、その将来は既に始まっていると思うのであります。むしろ市の高齢者福祉対策が現実におくれをとっていると言ふべきではないかと現状



思うのであります。そこで、市は基金を今後どのように活用なさるお考えなのであるでしょうか、具体的な御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の第44号であります。南部圏域広域的水道整備計画を定めるについての同意の案件でございますが、ことしの6月9日付の朝日新聞には、この計画の水源となる長柄ダム周辺で産業廃棄物の不法投棄がされていたこと、その結果、ダムに隣接する勝古沢の廃棄物の丘から猛毒のシアンが出たことなどの実態を生々しく報道しております。シアンは、例えばシアン化カリウムは青酸カリ、シアン化ナトリウムは青酸ソーダとも言われ、人の致死量はわずか0.15グラムほどと猛毒の代表とされております。水道法では、水質基準の中でシアン、水銀その他の有毒物質を含まないこととしております。もし周辺の産廃の捨て場からシアンがダムに流れ込み、そのシアンが検出されたとすれば、もはや水道水として使用することはできません。大変重大な問題だと思います。この新聞報道にあるように、周辺の不法産廃捨て場からシアンが検出されたというのは事実でありましょうか、御説明をいただきたいと思います。

また、今後とも水源の水質を保全していく上で、周辺の産廃捨て場について、土地を買い取るなどの手だてをとって周辺を保全するなどの措置が必要なのではないかと思うのでありますが、どのようにこの水質の保全を図っていくお考えなのであるでしょうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、6月の市議会でも論議をしまいましたが、この構想では千葉県の実情があまりあり、結局最終的には加入している市町村の水道料金の高騰ということになるのではないかとその危惧を指摘してまいりました。その後、この問題について県はどのような責任を負うことを明らかにいたしましたか、用水の供給料金の見込みと県の助成措置について御説明をいただきたいと思うのであります。

第3点目に、議案説明書によりますと、県は県内の水道事業計画を3つの地域に分けておるわけですが、このうち西部広域圏は末端給水まで県営事業として実施されている地域を含んでおります。この結果、県営水道の地域は県南部に比べて料金も安く済んでいることと思います。例えば、月10

トン当たりの料金を比較すると、市営水道では 1,194円に対して県営水道が 850円ということになるかと思いますが、いかがでありましょうか。同じ千葉県でありながら、水道に関しては県の北部と南部では大変不公平な行政が行われているのではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第43号の基金の活用についてどのように考えているのかとの御質問でございますが、これは普通交付税の基準財政需要額において、本格的な高齢化社会に備え、地域における福祉活動の促進、快適な生活環境の形成等を図るために要する費用として地域振興基金費が措置されたことに伴い、この基金を設置し、福祉関連事業を推進しようとするものでございます。具体的な活用につきましては今後十分検討してまいりたいと考えております。

次に、議案第44号の第1点目、長柄ダムの水質とその周辺の産業廃棄物の現況についての御質問でございますが、長柄ダムは九十九里地域水道企業団が水道用水供給の原水として既に利用しており、水質自体は比較的良質な水源と考えております。ダム周辺の産業廃棄物の不法投棄につきましては、県、水資源開発公団及び九十九里地域水道企業団が調査した結果、ダム内の水質に異状はなく、その後の定期的な調査でも安全が確認されております。今後水質の保全対策及び水質監視体制の強化について、南房総広域水道企業団の構成市町村とともに関係機関に要請してまいりたいと考えております。

次に、第2点目、用水の供給料金見込みと県の助成措置についての御質問でございますが、県の助成措置につきましては、昨年の9月県議会での支援協力する旨の知事答弁を初め、本年6月の供給料金を九十九里地域水道企業団並みにとの知事答弁、同年7月の総務企画常任委員会においても供給料金を1立方メートル当たり 220円程度に抑えたいとの考えが示され、現在具体的な支援策について検討をしていると伺っております。

次に、第3点目、水道料金の地域間格差についての御質問でございますが、水道事業等の地方公営企業は独立採算制が原則とされており、規模の異なる事業体間では必然的に水道料金にも格差が生じます。しかしながら、水道事業は公共的役割が大きいため、県では水道総合対策事業制度を設け、高料金を抑制する助成措置を講じているところでございます。この制度は水道料金の地域間格差是正に一応の成果を得ていると考えますが、さらに充実した制度の確立と水道事業全般に対する財政措置について今後も引き続き県及び国に要望してまいります。

以上、答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 福祉基金条例に関してでありますけれども、具体的に市がこういうことをやりたいから、そのためにとりあえずお金がかかるからこれだけためて、5年計画で何かやりましようとかというのがこれまでのいわば基金の考え方といいますか、そういうものがあったかと思うんですが、どうもそうじゃない。とにかくお金が地方交付税の中で措置されたという中で、さあこれからどう使おうかというお話のようでありまして、具体的な説明となると今後十分な検討というんで、今まで何にも十分な検討してなかったのかなというふうに言われてもしようがないかなと思うんですけれども、これだけの具体的な6,000万からのお金があるわけで、もし具体的にこんな点はどうなんだということでお考えになっている点。

率直なお話、それがすぐできるできないとかっていろんな検討がこれから必要だろうと思うんですけれども、私どもも文教ではせんだって小松市の視察をして、託老所というような施設、これが国の補助事業でも国の制度でも全くなくて、市の単独事業としてやっていて、しかも非常に住民から期待が込められて、我々が見た限りではなるほどうまくいっているなという感じを持って帰ってきたわけなんです、それが直ちに館山の中で今できるという点ではいろいろ問題点もあります。しかしながら、将来の老人福祉という視野から考えた場合に、何でこんな制度が国の制度の中に位置づけられないのかなと思うようなところもあるわけで、こうした施設も含めて老人福祉全体

をどうしていくかというようなことから、こんな託老施設なんていうものも考えていかなきゃならんじゃないかなという気がするんですけども、市の方では具体的にどんな施策をこの基金を生かした中で考えているのかもう少し御説明があったらなと思うんですが、その点。

それから、水の関係でありますけれども、現在九十九里水道等で上水道で使っているということで、水質については心配がなかった、こういう検査結果であったというんですが、このダム内の——長柄ダム内の水質でシアンイオンが検出されたということになると、直ちに水道水としての使用は不可能かと思うんです。それほど重大な問題であろうかと思うんですが、その辺いかがでありますか。それだけに、この周辺でシアンが捨てられているという事実は大変重大な事実ではないかと思うんです。このシアンの不法産廃があって、これについて県がどのような措置をこれまでされてきておるのか御説明をいただきたいと思います。この問題は軽々に考えられる問題ではなくして、この点がきっちりとされない限り、水源としての不安というのが大変大きなものを今後に引きずるということになるかと思しますので、そういう意味から県がこの不法産廃に対して毅然とした態度、そして今後ともこういう事態が絶対起きない、既に捨てられたものも含めてそういったものが除去される、こういう点についての見通し、こういったものがどういうふうになっているのか御説明をいただきたいなと思うんです。

料金の問題については、一応県の方が九十九里並みということですか、あるいは220円という具体的な数字も示して議会の場で発言したということではありますが、一応九十九里水道のときには県知事との覚書交わしているわけですから。こういうことを含めまして、現在この県議会における説明の——公的な発言ということになろうかと思うんですが、こういうことをもって一応よしとするのか、いやそれだけじゃまだ不安だというふうにお考えになっておるのか、ちゃんとした協定書なり何なりを交わしておく必要があるのかどうか、その辺についてのお考え。

それから、この事業の問題で、県に対して不公平があるんで、この不公平を是正する方向でいろんな制度の充実——補助金の充実なり、こういったも

のが必要かと思うんでありますけれども、今度の事業はあくまでも市町村が連合して行うという — 広域圏のこういう考え方になるわけですが、地方自治法の中では、上水道その他の利水事業、これが広域にわたるもの、統一的な処理を必要とするもの、こういう場合には県の事業として行うのが適当であるということが地方自治法の第2条第6項の中で例示されている中にあるわけなんです。今回そういうことをしなかった。これは恐らく水道法 — 市町村経営が原則である、こういうお考えの中で出たものなのかなと思うんですが、その辺についてはどういうことなのか御説明いただきたいと思っています。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 基金の具体的な活用について現在どのようなことを考えているかという御質問でございますが、館山市におきましても老人福祉施策積極的に取り上げているところでございますが、具体的な施策としまして、当面問題になっておりますデイ・サービスセンターなどを含めました施設整備事業、それからその他老人の生きがい対策、そういうものも幅広く考え、これから十分に検討していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） お答えいたします。

長柄ダムのシアンの問題でございますが、これは昭和62年8月に長柄ダム周辺の産業廃棄物の不法投棄事件が報道されたわけでございまして、県におきましても投棄場所を調査した結果、62年9月18日、それから10月の5日に投棄の現場から検体が — シアンの検体が検出されたということでございまして、63年3月14日、県の改善指導によりましてシアン検出箇所の産業廃棄物を撤去した結果、その後の調査では異状なかったということでございます。また、水資源開発公団及び九十九里水道企業団の調査の結果におきましても水質には異状なかったというような結果でございます。

それで、県の対策といたしましては、平成2年9月の5日に不法投棄した地主を廃棄物処理法違反で告発しまして、9月の12日、産業廃棄物を撤去す

るよう求める措置命令が出されております。それと、水資源開発公団も63年3月4日、地権者、運搬業者を相手取りまして東京地裁に民事訴訟を起こして、現在公判中であるというように聞いております。

いずれにいたしましても、これは九十九里、安房、夷隅地域の貴重な水源でございます。今後も水質監視体制につきましては十分注意し、よっては申し入れていきたいと思っております。

それから、料金の見込みでございますが——見込みと県の助成措置というようなことでございますが、現在具体的な支援策を検討しているということでございます。これを引き続き見守りながら、事あるごとに要望、要請をして、できるだけ水道料金の抑制に努めてまいりたい、このように考えております。

それから、第3点目の問題でございますが、これは水道法によってやはり市町村営でやるんだというような1つの決めもございますんで、現在のところ県では用水供給企業団に対しての助成措置はしてございません。したがって、水道事業体に対しても水道総合対策事業でその均衡を是正するんだというような方向で進めているということでございますんで、これから——いろいろな水問題協議会等も設置されておりますんで、そういう中でひとつ十分各市町村の水道事業体の内情等を御理解の上、今後も引き続き県にお願いをしていくということでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 福祉基金条例の関係でありますけれども、率直なところ言って具体的なあれはまだこれからという感じがするんですが、同時にそうすると——1点だけお聞かせいただきたいのは、基金という中ではその運用益を利用するなんていう基金の運用の仕方もあったりするんですけれども、この6,000何がしという金額そのものを具体的にやはり全部使うということになるかと思うんですが、この計画はいつまでもやっているわけにいかんし、もう既に高齢化が始まっているという現状の中で、どういう時期までに結論を出して計画化していきたいというふうに考えておられるか。

それから、水道の関係でありますけれども、県がそれなりの努力はされておるのはわかるんでありますけれども、引き続きこういうようなことが起こらないという保証は全く現在のところないんじゃないかな。せんだって10月に富浦の方が見に行ったときでも、やはり産廃の捨て場の業者だと、あるいはその地主だと思われましてけれども、そういう方と取材に来たNHKの記者との間の押し問答が繰り返されているわけなんです。実際に我が党の議員も調査に行きましたけれども、現場を——産廃の捨て場の現場を見に行く場合に、見張りがいるんです、業者側の。それで、その土地に入って写真を——産廃捨ててあるわけですから、その生々しいところをなるべく近くに寄って写真を撮ろうとすると、人の土地に入ったといって写真を抜き取られるから注意してほしい。写真を撮る場合でも、地主さんの了解を得て入るようにしないといろいろ後で問題になりますので慎重に対処していただきたい、こういうような話があったんです。大変なところだなと思ったんですが、そういう産廃業者が現実におるわけで、あそこいら周辺がそういう産廃の事実上捨て場ということにされているというのはもう周知の事実なわけです。

それだけに、これをどうするか。後を追っかけ追っかけ、やれシアンが出ました、やれ重金属が出ました、そのたんびにこれやっていたんではもう大変なことだろう。一罰百戒ということもありますけれども、しかし——そのつもりで県もやったんでしょけれども、実態はその後基本的にもそういうことは続いているわけですから、根本的に是正されているとは思えないんです。そういう点からしますと、ここは周辺の土地を県が買い上げるなりの抜本的なことを本当に考えていただけないと、これはいつまでもこの水毒が入っていないかなという思いで飲むということが続きやしないかと思うんです。その点何か周辺の産廃の捨て場に対する法的な規制をきちんとしていく手だてについて、後追い後追いではなくして先に先に手を打つようなことがどうしても必要だと思うんですが、この辺は具体的に検討がされておるのかどうか。

それから、この事業は九十九里水道の関係の加入市町村が既に——広域的な九十九里水道企業という形でやるのではなくして県営事業としてやってほ

しいという決議を各市町村でやっているわけです。その県営事業にするという点から見ると、私は地方自治法の第2条第6項でいうところの都道府県の事業だと思うんです。広域的な——広域にわたるものについては、これは県が処理する。その具体的な例示の中で、上水道そのほかの利水事業という形で特に述べられているわけで、三芳水道みたいに小さな2つ3つの自治体でやっているのではなくして、17市町村というわけですから、これはもう市町村を原則としてというよりも、この地方自治法第2条第6項による広域的な処理として県が行うのが妥当なものだというふうに言うことは大変道理もあるし、根拠もあることじゃないかなと思うんです。しかし、現実には始まっている今の事態が——それは承知しておりますけれども、しかし本来はこういう地方自治法第2条第6項の趣旨に沿って県営への移管、こういったものをやはり強く主張するべきじゃないかなと思うんですが、この辺はいかがお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 福祉基金の具体的なこれからの計画といいますが、そういうことでございますけれども、具体的な計画はまだでございますが、ことしの6月に老人福祉法等が改正になりまして、それによります市町村の老人福祉計画及び老人保健計画を平成5年の4月までにつくらなければならないということになっておりますので、そこらも視野に入れながらこの福祉基金を活用してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 答えいたします。

まず、周辺の産廃に対する検討、対策ということでございますが、現在県においてそういった公判の続行中である、継続中であるということもございます。それから、具体的には水資源公団におきましては、不法投棄がダム内に流出することを防止するために、締め切り用の矢板あるいは防御さく、小堤、盛り土等を設置してございます。そのほかに法的な規制ということで今後また県の環境部等に十分申し入れていきたい、このように考えております。



それから、県営化ということですが、これにつきましてはやはり水道法の第6条2項という規定がございます。その中で、水道事業は原則として市町村が経営することになってございます。これに基づき、全国的にも市町村が主体で水道事業が経営されているわけでございます。今後――県と市町村の水道懇談会等がございます。こういう中で――県下の水道における問題点及び対応方策等につきまして各地域の水道事業体の意見交換の場がございます。この構成は、県関係――総務部の地方課を初めとする――企画部、そういった方々で構成される――それから用水事業関係の6団体、それから上水道関係の地区の代表から成る――構成されている懇談会がございます。十分こういったことを要望してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（渡辺昭夫君） ただいま議題となっております議案第42号乃至議案第44号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議案の上程

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第3、議案第45号及び議案第46号の各議案を一括して議題といたします。

#### 質疑応答

◎議長（渡辺昭夫君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第45号一般会計補正予算の第2号についてお尋ねを申し上げます。

10ページをお開きください。10ページの保健衛生費、環境衛生費の中に補助金として家庭用小型合併処理浄化槽設置事業補助金 534万 5,000円が計上されております。これに関してお尋ねを申し上げます。説明書によりますと、設置基数の増によるものとされておるわけですが、当初見込み数15に比べて倍に近い27と設置見込みがふえております。このふえた理由について御説明をいただきたいと思います。

第2番目に、合併式浄化槽の普及がなかなか進まない理由の中でさまざまな点があるかと思いますが、設置費用については補助があるけれども、したがって単独処理浄化槽との費用はそれほど変わらない。しかし、管理費用が単独式に比べて高いという問題があるかと思いますが、合併式の普及を図るために維持管理費用についても助成措置はできないでしょうか、この辺についてのお考えをお聞かせください。

第3点目に、一昨日の私の質問の答弁の中で、合併式の補助対象を50人槽までに拡大することでありましたが、10人槽までの合併浄化槽の補助では、国の補助制度もあり、単独浄化槽との差額相当分を補助するとの基本的な考え方でごございましたけれども、この50人浄化槽においてはその補助の考え方はどのようになりましょうか、補助要綱について御説明をいただきたいと思うのであります。

第4点目に、過日市街地を中心といたしました公共下水道の計画地域が示されましたけれども、これに対して農村部については下水道計画が何ら示されておられません。市街地、農村部との間で大変な格差があるのではないかという質問もございました。しかし、全国的には日米構造問題協議を受けて取りまとめられた公共投資10カ年計画で農業集落排水事業が生活関連事業として取り上げられ、今後10年で現行の整備水準約1%を中都市並みの約42%に上げることを目標にしております。既に 2,800余の市町村、集落にして6万 8,000集落が整備を計画しております。こうした中で、公共下水道の地域以外の農漁村部のうち、どの地域については農業集落排水事業で整備を図るの

か、そしてそれはいつごろまでにというように具体的な計画を急ぐ必要があるのではないかと思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。この計画がはっきりしないと、結果的に合併浄化槽が二重投資になるなどの問題が出てくることになると思います。いかがでありますでしょうか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 神田議員の御質問に対しまして御答弁いたします。

第1、合併処理浄化槽設置事業についての小さな第1点目、増額の理由についての御質問でございますが、当初予定しておりました設置基数15基より12基多く申請されたことによる増でございます。

次に、小さな第2点目、維持管理上の助成についてでございますけれども、現在のところ考えておりません。

次に、小さな第3点目、50人槽の補助要綱についてはどうかとの御質問でございますが、公共下水道整備事業との整合を図りながら、処理対象人員が50人以下の住宅要件を満たす浄化槽について補助対象とし、現在行っております10人槽までと同じく差額補助を考えております。

なお、住宅要件とは、店舗等と併用する場合は算定基準に基づき処理対象人員の算定を行い、処理対象人員が50人以下のときは補助対象建築物とするという考え方でございます。

次に、小さな第4点目でございますが、公共下水道の全体処理計画面積約1,200ヘクタールにつきましては平成2年6月議会でお答えいたしましたとおりでございますが、それ以外の区域につきましては農業集落排水施設等の手法がございますので、公共下水道計画と整合を図りながら将来の研究課題といたしたいと考えております。

以上、答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 合併処理浄化槽については当初予算が大分少なくなって、従来30基で予算組んでいたのが本年度は15基という――当初予算が

大分減って心配をしていたらやっぱりかなり出てきまして、なかなか行政の思惑とは違って、予算をたくさんやると余り出てなくて、予算が少なくなるとたくさん出てくるということで、そういうこともあるのかなと思いますけれども、その辺の理由がもう少し — こういう傾向は — 当初は物珍しさもあってやった面もあったのかもしれませんが、それが一時減ってまたふえてきたというのは、やはり合併処理浄化槽のよさというものがじわじわと住民の合意という中になってきたということならば大変いいことだなと思うんですが、その辺の理由がいま一つどういうことなのかなということで、行政の執行部側で把握があったらと思ったんですけども、その辺について御意見、御感想なりがございましたらお答え願いたいと思います。

それから、管理費用についての助成措置は当面は考えておらないということで、これは今後考えなきゃならない時期も来るんじゃないかなということで、一応了解いたします。

それで、この50人槽の考え方で、住宅要件ということでもう少しざっくりばらんな話で、店舗併用住宅といいますか、民宿ですとか、こういうところだと、50人槽規模の場合に、それが自分たちの家庭用にも使う。同時に営業用にも使う。こういう場合についてもこの補助対象になる。こういうことで今のお話では理解をできるんでありますけれども、ちょっと違う面からなんですけれども、この合併式浄化槽の中で敷地が足りないということが — 実際に検討すると設置ができない場面があるかと思うんですが、例えば4～5軒が共同して50人槽を設置する。その場合ですと敷地要件等はクリアできる。こういう場合にはこの50人槽という形で補助が可能だというふうに理解していいんでしょうか。

それと、農業集落排水については将来の研究課題というお話で、これがまたなかなか難しい意味で慎重に考えなきゃいけないことで、将来の研究課題というのはいつ考えるのかなということなんです。現実には10カ年計画ということで示されて、現在既に2,800 — 3,400の全国市町村の中で2,800の規模の中で検討がされておって、それぞれ6万8,000の集落が整備の計画化が現実にもう進んでいる。政府は対米公約だということで、おかしい話なんで

すけれども、私に言わせればアメリカに約束しちゃったから一生懸命やんなきゃなんないというのも — 国民に約束したからやらなきゃならないってよくわかるんですけれども、日本の政府のおかしな現実ではありますけれども、しかし現実にはそういうような中で農業集落排水事業を相当取り組まなきゃならないという現実もあるかと思うんです。そういう点で、将来の研究と言っているんですけれども、かなりそれは近い将来でなければならないと思うんです。少なくとも次年度の中でとか、具体的なやはり研究をどういう地域でどういうふうに行っていくのかという話を急がなければならないんじゃないかなというふうに思うんですけれども、その辺は — 将来の研究というのはどういう時期というふうにお考えになっているのかお聞かせをいただきたいなと思うんです。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 浄化槽の敷地の関係でございますけれども、私どもの実施しておりますのは国、県 — 主に県でございますが、県の千葉県合併浄化槽設置促進事業補助金交付実施要綱というものに沿ったものでございますけれども、この中の原則は1敷地1浄化槽が原則でございます。そういうことでございますので、ただいま御質問の複数の場合にはどういうふうになるかという — 集合した場合にどういうふうになるかという御質問については、その基準の範囲外ではないかというふうに考えられますので、今後検討させていただきます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 農業排水路の処理についてのことをいつから実施したらいいのかというようなことで、いつごろかという話があったわけですが、これはつい — 本年の6月でございますでしょうか、1,200ヘクタールの市街地の整備について実施をしたいということでまだ発表したばかりでございます。これはそれ以外に — 館山市も8つの区域がどんな方法でやったらいいかということで、下水道エリアマップによりまして調査をしたところでございますけれども、まだ実際にどこの地域をどのような方法でや

るかということは全く現在のところやっておりません。したがって、早い機会にやることが二重投資とか、あるいは補助金をつける意味からは大切だということは十分考えられるわけでございますけれども、何せ全体の市街地の整備がまだおこなわれているというような状況でございますので、できるだけ早くはやりたいと思いますが、実情を御勘案を願いたいと思います。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（渡辺昭夫君） ただいま議題となっております議案第45号及び議案第46号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 請願書の上程

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第4、請願第29号乃至請願第31号の各請願を一括して議題といたします。

#### 委員会付託

◎議長（渡辺昭夫君） ただいま議題となりました各請願は、12月12日議会運営協議会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議長の報告

◎議長（渡辺昭夫君） なお、この際申し上げます。

12月12日議会運営協議会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

延 会 午前11時04分

◎議長（渡辺昭夫君） お落りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明20日から24日まで委員会での議案審査のため休会、次会は12月25日午前10時開会といたします。その議事は、議案第42号乃至議案第46号等に係る委員会での審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは12月25日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第41号乃至議案第46号

1 請願第29号乃至請願第31号